

**社団法人 日本ボディビル連盟**  
**平成20年度 臨時総会議事録(抜粋)**

◇ 日 時 平成20年10月4日(土) 15:00～17:15

◇ 場 所 大阪厚生年金会館  
大阪市西区新町 1-14-15 ☎06-6532-6301

◇ 会長挨拶

20年度の総会に皆様全国より誠にご苦勞様でございます。お陰様で明日第54回の日本選手権を皆様のご協力で開催されますことを心から感謝申し上げます。

JBBFも日本に設立してからすでに54年経ちまして、今日ではJOCの正加盟団体になりアジア競技大会にもすでに2度も参加しているという状況になっております。

今年はまたインドネシアバリ島に於いてアジアOCA主催に於いてアジアビーチゲームズが行われます。この種目にボディビルがすでに決定しており16日には選手団が出発することになっております。昨日JOCにて監督会議があり朝生監督が参加していますので後ほど朝生監督より説明があると思います。

そういう状況でありまして、いよいよボディビルもスポーツとして他のオリンピック競技団体と肩を並べるところまでたどり着いてきました。これからボディビルを本当にスポーツとして又健康づくりの運動として、文化として定着する大事なところへ来ていますので皆様方のご協力をより一層お願いする次第です。

◇ 議長選出 議長は玉利齊会長を選出。

◇ 定足数の確認 正会員総数60名。本日出席正会員28名、委任状による出席正会員29名、欠席正会員3名、合計出席正会員57名により正会員総数の過半数を上回り、定款第24条に基づき総会は成立。

**【第一号議案】平成20年度前期事業報告について**

1. 国内事業

(1) 第12回日本クラス別ボディビル選手権大会

主 管:福岡県ボディビル連盟

実行委員長:山田博三 福岡県連盟副会長

開催日:平成20年7月13日(日)

会 場:飯塚コスモスコモン

(2) 第19回ジャパンオープンボディビル選手権大会

主 管:静岡県ボディビル連盟

実行委員長:後藤 剛 理事長

開催日:平成20年8月3日(日)

会 場:島田市民会館

(3) 第25回ジャパンミックスドペアボディビル選手権大会

主 管:静岡県ボディビル連盟

実行委員長:後藤 剛 理事長

開催日:平成20年8月3日(日)

会 場:島田市民会館

(4) 第13回オールジャパンミスフィットネス選手権大会

主 管:日本社会人ボディビル連盟

実行委員長:五十嵐清四郎 理事長

開催日:平成20年8月17日(日)

会 場:きゅりあん(品川区立総合区民会館)

(5) 第2回オールジャパンミスボディフィットネス選手権大会(女子世界派遣選手選考会)

主 管:日本社会人ボディビル連盟

実行委員長:五十嵐清四郎 理事長

開催日:平成20年8月17日(日)

会 場:きゅりあん(品川区立総合区民会館)

- (6) 第16回日本女子チャレンジカップボディビル選手権大会  
 主 管:日本社会人ボディビル連盟 実行委員長:五十嵐清四郎 理事長  
 開催日:平成20年8月17日(日) 会 場:きゅりあん(品川区立総合区民会館)
- (7) 第8回ミス21健康美大会  
 主 管:日本社会人ボディビル連盟 実行委員長:五十嵐清四郎 理事長  
 開催日:平成20年8月17日(日) 会 場:きゅりあん(品川区立総合区民会館)
- (8) 第20回日本マスターズボディビル選手権大会  
 実 行:JBBFマスターズ委員会 実行委員長:磯村俊夫 マスターズ委員会委員長  
 開催日:平成20年9月28日(日) 会 場:江戸川区総合区民ホール(タワーホール船堀)

## 2. 国際事業

- (1) 第4回東アジアボディビル選手権大会  
 開催日:平成20年月5日27日～31日 会 場:モンゴル ウランバートル  
 団長 玉利 齊 日本ボディビル連盟会長  
 監督 吉田 進 日本ボディビル連盟副会長  
 コーチ 朝生 照雄 日本ボディビル連盟選手強化委員長
- (2) 第42回男子アジアボディビル選手権大会  
 第25回女子アジアボディビル選手権大会  
 第10回アジアフィットネス選手権大会  
 第5回アジアボディフィットネス選手権大会  
 開催日:平成20年月7日16日～21日 会 場:中国 香港  
 団長 玉利 齊 日本ボディビル連盟会長  
 監督 吉田 進 日本ボディビル連盟副会長  
 コーチ 廣田 俊彦 日本ボディビル連盟選手強化委員

### 【第二号議案】 新規加盟クラブ及び退会クラブについて

1. 新規加盟クラブ なし
2. 退会クラブ
  - (1) 群馬県連盟 千束道場ストレングスジム 千束さゆり代表 退会

### 【第三号議案】 規程の改定について

提案の選手権大会実施規程変更について規約委員会を含め、執行部にて再度審議し一任すること、また公認審査員認定規程変更の基本的方向性は賛成、細目については審査委員会で再検討してから執行部会に一任された。

### 【その他】 運営に必要な事項の検討及び報告

1. 関東クラス別選手権大会(千葉県主管)審査員の途中退席について  
 大会開催時には必ず審査委員長を決めなければならない。日本連盟が進行表を含む運営を確認し承認が必要。などの意見が出た。審査の結果については選手の順位が入れ替わることの説明があり、審査の途中で私的理由で退席した審査員、主管の千葉県連盟理事長についての処分は審査委員長、規約委員長を含め、執行部に一任された。

## 2. ドーピングテスト実施結果について

平成20年度は20大会で46名(男子41名・女子5名)、競技外でのドーピングテストは12名(男子10名・女子2名)を実施した説明があった。また、陽性の選手が関東選手権で出たことが報告された。昨年よりの懸案事項で千葉県の手選手の所属クラブへの罰則金が3万円と執行部会で決定したこと、今年の東京の選手の手罰則規程、本人がJBBF公認クラブのコーチなので10万円、東京連盟は2万円の罰則金が確認された。また、20年度アンチドーピング委員会活動の報告と協力お礼があった。

## 3. 登録選手の肖像権(テレビの出演・雑誌などの掲載はJBBFの承認が必要)について

### (1) M選手の写真広告掲載(イサミ)について

未だにイサミより、広告にM選手の写真を使用したことについて、何の連絡も無く、M選手からはJBBF選手登録者は肖像権をJBBFに預けていることに違反したことを謝罪する文書が提出されている。イサミも広告ではM選手と判らないように11月号から編集された。しかし、イサミより何の回答も無いので文書で厳しく対応をすることが確認された。

### (2) Y選手の写真広告掲載(NEXT 誌フィットネス市場)について

Y選手は以前にもマッスルフェスタを開催する他団体の代表者の商業広告(月刊ボディビルディング誌)に写真が掲載されて注意を受けた。今回は求人雑誌(NEXT)の中の広告頁とインターネットに写真が掲載されていることが問題となった。本人はボディビルと関係がないから問題がないと解釈している。審議の結果、事情を聴取し本人の対応次第ではY選手にペナルティを課すことが確認された。

### (3) 肖像権について

- ① 選手個人が商業的な目的で映像や写真を使用出来ません。
- ② テレビ・イベント・広告等に選手個人の意思で出演したり、掲載することは出来ません。
- ③ 但し商業目的でない報道目的の場合のテレビ・新聞・雑誌等への出演はその限りではない。
- ④ いずれにしても事前に県連盟を通してJBBFの承認を受けることが必要です。

このようなマスコミ出演、広告写真の掲載などについて、平成14年3月2日付けでのJBBF特別通達があるので、今後JBBFに選手登録をしている選手は勝手に行動しないように玉利会長より注意があった。

## 4. 月刊ボディビルディング誌について

玉利会長より体育とスポーツ出版社の橋本社長との話し合いの結果以下のように説明された。「月刊ボディビルディング誌は、日本の愛好者を対象にしている雑誌である限り日本ボディビル連盟との協調連携が無ければ成り立たない。内容が反JBBF的な表現になってから売り上げが減少している。編集担当者へ何度も改めるよう指示したが自分の主張を変えなかった。トレーニング理論はいろいろなシステムがあっても良いが、しかしこれだけが正しくて他は間違っているという表現はおかしいと伝えていた。

雑誌社内部でこの編集担当者が辞めて、今後雑誌社はJBBFと協調連携していく」との申し入れがあった。

これに基づきボディビルディング誌の新しい体制第一弾として主な専門委員会の各委員長に集まって頂き「ボディビルの現状とJBBFの方向性」をテーマに座談会を行うことを決定した。

今後月刊ボディビルディング誌はJBBFと密接に協調連携していくことが玉利会長より報告された。

## 5. 所属地方連盟正会員の活動について

県連盟があるけれども活動が皆無のところがある。日本連盟の総会にも欠席し、県連盟責任である大会、総会、事業報告、収支報告、役員改選などを一切行わないところがある。

また、自分の県の大会が実施できない上に他県との合同開催もせず、選手が大会に出られない

いという重大な問題がおきている。このような問題に対しブロック代表の報告をもとに確認警告するとともに反省が見られない場合はペナルティを科すことが決定された。

6. 選手登録費返還について

大阪連盟より公認クラブジップスポーツクラブ所属選手(1998年ドーピング陽性)の新規登録があったが、手続きが遅くなり大会に出られなかったため登録料は返還することが報告された。

7. 東京連盟退会クラブの日本連盟会費の未入金について

20年6月の総会で退会届が東京連盟から日本連盟にあったが、会費が未払いの為退会ではなく規程に基づいて除名とすべきであるとの意見が出され、更に他県にある同クラブの扱いは別代表者名義で経営している場合は問題としないなどの意見も出た。東京連盟より再度クラブに督促をして入金しない場合には退会ではなく除名とすることを日本連盟に申請する。

日本連盟は執行部で審議しペナルティを決定することが一任された。

8. 専門委員会について

マスターズ委員会の金澤利翼氏(広島県)、田吹俊一氏(千葉県)の両氏は選手として活動したので専門員を辞退したいとの連絡があったので辞退を認めることが報告された。

9. IFBBプロのクリス・フェルド選手のDVD販売出店と紹介について

マッスルメディアジャパンのブースにてDVD・グッズを販売したいとの申し入れがあった。

クリス・フェルド選手はIFBBプロ選手になっているがアンチドーピングに徹していることが説明され、廣田俊彦選手と世界チャンピオンを競い合った仲(1997年第5回フィンランド・ラハティ・ワールドゲームズ大会で廣田選手が優勝、クリス・フェルド選手は2位)なので、日本選手権大会の舞台上で紹介することとDVD・グッズを販売することが承認された。

10. 海外在住の日本選手の日本国内大会への出場について

海外に在住して日本国籍を有する選手が国内の大会に出るために日本に戻って大会に出ることができるかの問い合わせがあり、

- ①アンチドーピングに徹している事。
- ②海外の在住証明書を提出。
- ③海外の大会実績はIFBBに加盟している団体の大会である事。
- ④過去にJBBF出場実績を有する事。
- ⑤日本連盟へ直接年度登録をすること。

以上の基本的条件で承認された。

11. 栗井直樹理事のDVD制作販売と肖像権について

JBBF登録選手が出ているがDVDの内容が普及と技術のレベルアップになる方向なので肖像権の使用を認めることが報告された。

12. 入賞賞品の統一化及び規格化について

地方連盟での大会の賞品内容の違いがあり、メダル、トロフィー、盾を日本連盟で規格化して、大量仕入れのメリットがある価格であれば各連盟へ卸すようにして日本連盟の収益を上げることが、埼玉県理事長より提案され、現状の賞品価格の調査と日本連盟の賞品案を検討することが確認された。

13. 日韓親善ボディビル選手権大会について

日本選手団:	監督	塚本 猛 義
	コーチ	田代 誠

選手 65kg	佐藤 貴規
選手 70 kg	奥村 武司
選手 75 kg	山田 幸治
選手 80 kg	今中 直博
選手女子 Open	山野 内里子

以上、日本選手団が発表され、監督より全員優勝すると宣言された。

14. 日本ボディビル選手権大会について

大阪連盟が役員一丸となって運営の協力をしていることが塚本正会員より説明された。

15. 神奈川オープンボディビル選手権大会報告

選手登録をしていない、又は加盟クラブ以外でトレーニングをしている人たちを対象に大会を最初の試みとして開催しました。ルールでは①フリーポーズはなし。②公式トランクスでなくスパッツを着用。後援を神奈川県体育協会から受け、公的運動施設、一般のトレーニング施設、体育施設に開催要項・ポスターを貼り宣伝広報を行った。参加者は19才から66才(平均年令33才)の男子23名、女子2名でした。参加者が意外に多く今後参加者に選手登録をしてもらい選手層の拡大を考えたいと、神奈川県理事長より報告があった。

16. アジアバリビーチゲームズについて

アジアバリビーチゲームズは、アジアオリンピック委員会がアジア地域のスポーツの振興として第1回をインドネシアのバリ島で開催され、9種目(①ビーチハンドボール、②ビーチバレーボール、③ビーチレスリング、④トライアスロン、⑤ボディビルディング、⑥ドラゴンボール、⑦パラグライディング、⑧サーフィン、⑨ビーチバスケットボール)で行われる。

日本選手団は、男子59名、女子21名、役員28名の108名。日程は10月16日出発、22日帰国。

ボディビル日本選手団は、総監督吉田進、監督朝生照雄、コーチ青田正順、選手 60kg 級小久保一美、65kg 級津田宏、70kg 級合戸孝二、75kg 級谷野義弘、80kg 級鈴木雅、85kg 級下田雅人、以上9名。朝生監督より全員6位以内入賞、4個のメダル獲得が宣言された。

17. 東京都北区体育協会への加盟進捗について

北区体育協会への加盟をするために2年ほど前からすすめ、北区在住の奥寺元氏、会長友人で元プロ野球選手の森徹氏の協力のもと来年3月には承認されるように活動していることが、鳥谷部正会員より報告された。

以上で総会が終了した。